

第3学年 社会科

1 学年の目標

社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

知識	(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解する。
技能	(2) 調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(1) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。 (2) 思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

2 内容及び内容の取り扱い

(1) 内容の枠組みと対象

内容	枠組み	対象	関連する対象
(1) 身近な地域や市区町村の様子	地理的環境と人々の生活	地域	政治
(2) 地域に見られる生産や販売の仕事	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	経済・産業	地域（地理） 国際関係
(3) 地域の安全を守る働き	現代社会の仕組みや働きと人々の生活	政治	
(4) 市の様子の移り変わり	歴史と人々の生活	地域	国際関係

(2) 内容の取り扱い

① 身近な地域や市区町村の様子

ア 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

イ 観察・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

ウ 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

(ア) 学年の導入で扱うようにすること。

(イ) 授業時間数の配分などを工夫して、「自分たちの市」に重点を置いた効果的な指導を行うように計画すること。

(ウ) 「白地図などにまとめる」際に、地図帳を使って方位や主な地図記号について扱うこと。

② 地域に見られる生産や販売の仕事

- ア 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。
- イ 販売の仕事は、消費者の多様な願いを踏まえ売り上げを高めるよう、工夫して行われていることを理解すること。
- ウ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
- エ 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。
- オ 消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。
 - (ア) 「生産」については、事例として農家、工場などの中から選択して取り上げるようにすること。
 - (イ) 「販売」については、身近な地域にある、小売店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどの中から選択して、商店を取り上げること。
 - (ウ) 「他地域や外国との関わり」を扱う際には、地図帳などを使用して都道府県や国の名称と位置などを調べるようにすること。
 - (エ) 我が国や外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養うよう配慮すること。

③ 地域の安全を守る働き

- ア 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
- イ 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。
- ウ 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。
 - (ア) 「緊急時に対処する体制をとっていること」と「防止に努めていること」については、火災と事故はいずれも取り上げること。
 - (イ) 「緊急時に対処する体制をとっていること」については、火災に重点を置き、「防止に努めていること」については、事故に重点を置くなど、取り上げ方に軽重を付け、効果的に指導を工夫すること。
 - (ウ) 社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うこと。
 - (エ) 地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるように配慮すること。

④ 市の様子の移り変わり

- ア 市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解すること。
- イ 聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
- ウ 交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。
 - (ア) 「年表などにまとめる」際には、時期の区分について、昭和、平成、令和などの元号を取り上げるようにすること。
 - (イ) 「公共施設」については、市が公共施設の整備を進めてきたことを取り上げること。その際、租税の役割に触れること。

- (ウ) 「人口」を取り上げる際には、表や棒グラフを活用するなど、増減の傾向を大まかに捉えるように配慮すること。
- (エ) 市によっては、少子化や高齢化が進んでいることや外国人居住者が増え国際化が進んでいることなどに触れるように配慮すること。
- (オ) 市役所などが作成している資料などを基に、これからの市の発展について考えることができるように配慮すること。

3 問題解決的な学習の充実の視点

社会科では、従来から問題解決的な学習が重視されてきた。今回の学習指導要領でも、学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るために、問題解決的な学習過程を充実させることが求められている。

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿った資質・能力は、習得した知識や技能を活用して、調べたり思考・判断したり表現したりしながら課題を解決する一連の学習において、育成されるものと考えられるため、社会科においては、問題解決的な学習の一層の充実に努めることが有効かつ必要である。

社会科の問題解決的な学習には、一般的に二つの要件が欠かせない。一つは、学習者である児童が自らの問題意識に即して「自発的に問題を捉える」ことである。もう一つは学習者である児童が「自ら考えることによって学習問題を追究・解決していく」ことである。

つまり、これからの社会科では、児童が自ら問題を捉え、その問題を追究・解決していくプロセスを一層充実させること、それを通して知識や技能、思考力や判断力、表現力等を身に付け活用できるようにしていくことが求められている。

(1) 学習問題を共有する指導

問題解決的な学習では、学習問題をみんなのものにしていくこと（共有化）が不可欠である。そのためには、指導の工夫をすることが大切である。

- まず、「おもしろそうだ」という事実に出会わせ、児童の心を学習の対象に惹き付けるようにする。
- 次に、個々の驚きや素朴な疑問などをきっかけとして、児童の直感や経験、すなわち既有の常識的な見方や考え方では解釈・説明のつかない状況を経験させる。
- 最後に、そこで味わった驚きや疑問をみんなのものにしていく（共有化）。

学習問題は、児童の問題意識と表裏一体の関係で成り立つ学習の問題（社会科学学習のねらいを実現するもの）であることが必要条件である。学習問題の設定に当たっては留意し、適切な指導に努めなければならない。

- 「学習問題を追究していくことにより、単元の目標が実現できるか」という視点から、学習問題を十分に吟味する。
- 協働学習者とのかかわりの中で、個々の驚きや疑問がみんなの問いとして方向付けられ、焦点化されるようにする。
- 個々の児童が、学習問題の追究・解決の見通しをもてるように、発達段階に応じて、調べる視点や事柄、方法や手順、表現方法やまとめ方などを決め、具体的な学習計画を立案する。

(2) 学習問題に即して調べ、表す指導

「学習問題に即して、調べ、表す」ことを繰り返し指導することが大切である。児童は調べる学習に没頭すると、「何のために」「何を」調べているかを見失ってしまうことも多いので、それを防ぐための指導が必要である。

- 観察や調査、各種の資料を活用して調べる学習などにおいて、常に学習問題を意識させる。
- 調べたことを表現する場面において、表現していることが学習問題と離れてしまうことがないように、機会をとらえて一斉にあるいは個々に助言したり、学習問題を常掲して意識付けたりする。

また、観察・調査、資料活用の技能を高め、児童が自力で調べる力を育てることも、問題解決的な学習を充実させる上で必要不可欠である。

(3) 学習問題の解決に向けた思考・表現活動

学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする活動を工夫することが大切である。具体的には、調べたことを比較（比べる）・関連付け（つなげる）、総合（まとめる）しながら、学習問題の解決に向けて再構成する学習、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う（説明し合う）ことにより、お互いの考えを深めていく学習の充実を図ることが大切である。

その際、言語活動の充実に努め、他者とのコミュニケーションによって生まれる協働的な学び合いを大切にしていけることが重要である。

4 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識 技能	(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解している。 (2) 調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめている。
思考・判断・表現	地域における社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	地域における社会的事象について、地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。